

みんなで作ろう！

セーフコミュニティちちぶ

外傷サーベイランス委員会の
活動概要

報告者：委員長 西 秀夫



1 委員会の概要

外傷サーベイランス委員会設置

図表1

SC認証センターが示す「7つの指標に基づく活動」

指標4 あらゆる入手可能な『根拠』に基づいた予防活動の実施

指標5 外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

指標6 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組み

「セーフコミュニティの指標4、5、6」をカバーする組織

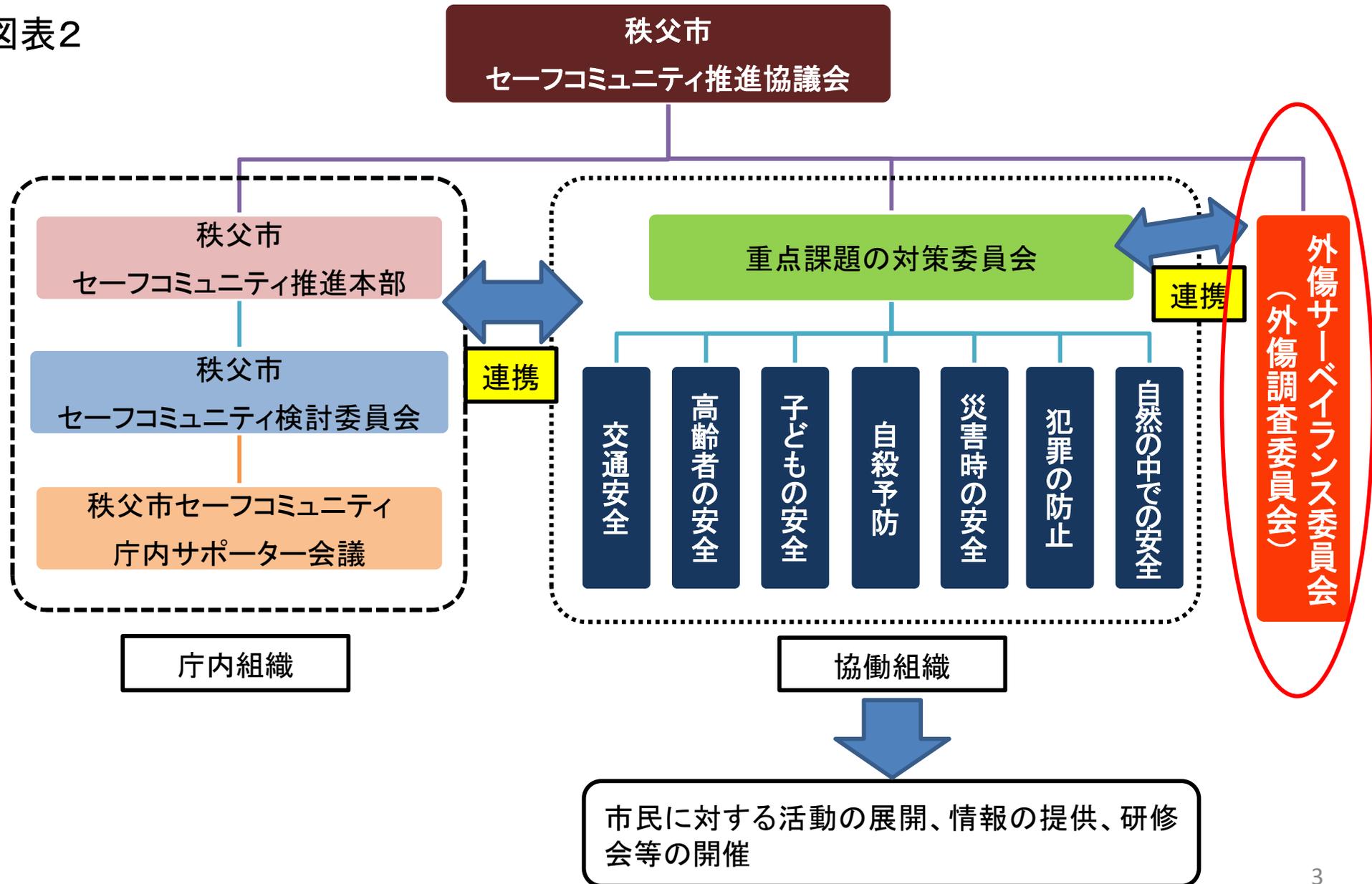


2014年2月
外傷サーベイランス委員会設置



外傷サーベイランス委員会の位置づけ

図表2



外傷サーベイランス委員会の設置

写真①



○設 置:2014年2月

○委員長:秩父郡市医師会医師

○委員数:11人

○役 割:

①対策委員会の取組みを根拠に基づいた活動とする助言

②予防活動の成果指標についての検証

③活動に関する情報の提供

外傷サーベイランス委員会の委員構成

委員長： 西 秀夫(秩父郡市医師会)

図表3

No.	分野	組織名称	委員数
1	医療機関	秩父郡市医師会	1人
2	教育・研究機関	東洋大学、東京大学、 日本大学 New	3人
3	専門機関	日本セーフコミュニティ推進機構	1人
4	行政機関 (データ保有)	埼玉県秩父保健所、秩父警察署 秩父消防本部、秩父市立病院	4人
5	行政機関(事務局)	秩父市(地域政策課、危機管理課)	2人

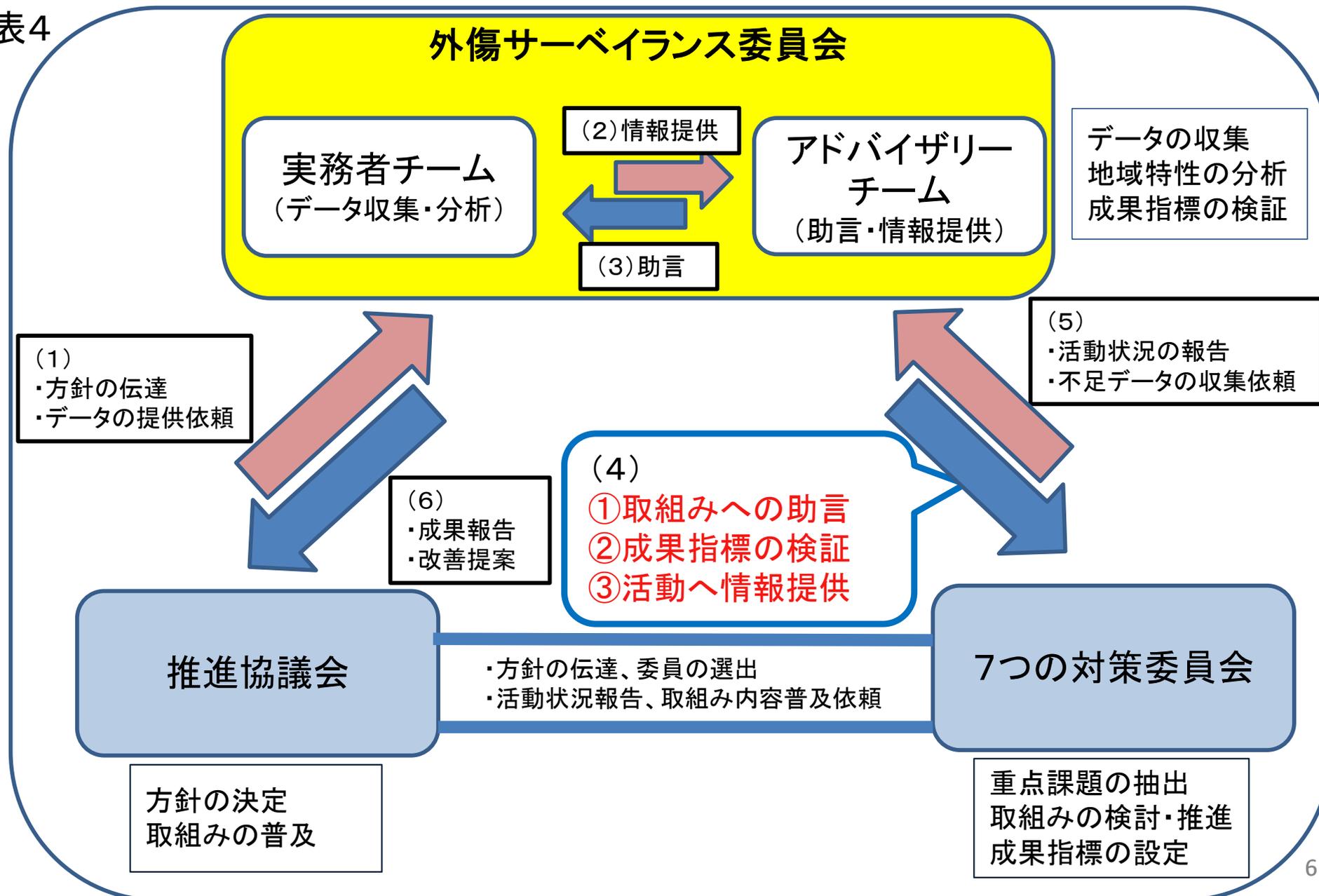
アドバイザリー
 (データ収集・分析)
 実務者

※外傷サーベイランスに医師会が参画する意義として、医療機関との連携の促進につながっている。



外傷サーベイランス委員会の役割相関図

図表4



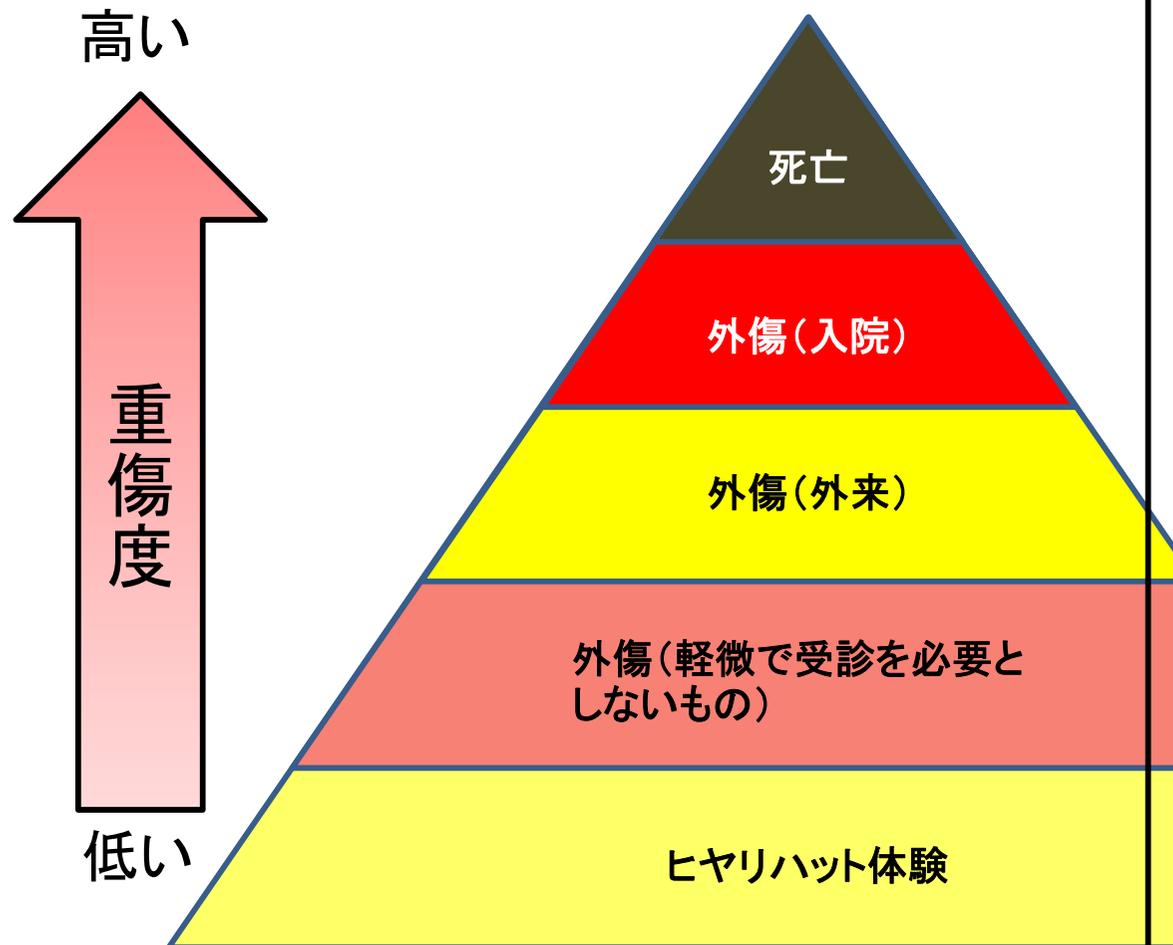


2 外傷記録の収集

外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

図表5

＜関連する主なデータ＞



統計データ

- ①人口動態統計
- ②労働災害データ
- ③警察統計
- ④救急搬送データ
- ⑤学校災害給付請求データ
- ⑥市立病院外傷記録

独自収集データ

- a.安心安全なまちづくりアンケート(2013年・2016年・2019年)
- b.高齢者のケガの実態調査(2014年9月)
- c.こどもの家庭内でのケガの実態調査(2014年12月)

外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

＜収集している既存の統計情報＞

人口動態統計や救急搬送データなどの既存の統計情報を利用して、外傷の発生状況を系統的に収集している。

図表6

No	統計等の名称	実施主体	使用する情報
①	人口動態統計	厚生労働省	死亡原因、自殺情報など
②	労働災害データ	厚生労働省	労働災害に関する情報
③	警察統計	警察庁	交通事故、犯罪に関する情報
④	救急搬送データ	秩父消防本部	事故やケガによる救急搬送情報
⑤	学校災害給付請求データ	日本スポーツ振興センター	小中学生のケガの情報

外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

〈市で行っている既存のアンケート等の調査データ〉

図表7

No.	調査名	対象者	使用する情報
A.	市民満足度調査	16歳以上の市民	防犯・防災施策など市の施策に対する重要度と満足度
B.	高齢者日常生活圏域ニーズ調査	65歳以上の市民	閉じこもり・転倒・口腔機能・物忘れなどのリスク状況、高齢者の虐待
C.	地域福祉に関する市民意識調査	20歳以上の市民	地域社会との関わり、ボランティア活動への参加、福祉情報の入手手段、福祉サービスについて、災害時の避難
D.	障がい福祉アンケート	障害者手帳所持者	障がいの内容、生活環境、保育・教育の状況、就業状況、経済状況、悩み事や相談、地域社会との関わり、防災・防犯への備え
E.	子育て支援ニーズ調査	保育園～小学校通学世帯	病気・ケガによる休暇状況、地域社会への関わり、地域医療について



○外傷記録の対策委員会での活用

日本ではすべての外傷記録を整理したデータベースが存在しない。
セーフコミュニティへの取組みによって、既存データの継続的な収集につながった。
既存データでは把握できないヒヤリハットのデータは、独自調査により補完していく。

図表8

頻度	名称	交通安全	高齢者の安全	子どもの安全	自殺予防	災害時の安全	犯罪の防止	自然の中での安全	所管
毎年実施	①人口動態統計	●	●	●	●	●	●	●	保健所
	②労働災害データ	●			●	●		●	労働基準監督署
	③警察統計	●	●	●	●	●	●	●	警察
	④救急搬送データ	●	●	●	●	●	●	●	消防
	⑤学校災害給付請求データ			●					教育委員会
	⑥市立病院外傷記録	●	●	●	●	●	●	●	市立病院
3年毎実施	A.市民満足度調査	●	●	●	●	●	●	●	市
	B.高齢者日常生活圏域ニーズ調査	●	●			●			市
	C.地域福祉に関する市民意識調査		●		●	●			市
	D.障がい福祉アンケート		●		●	●			市
	E.子育て支援ニーズ調査			●		●	●		市
	a.安心安全なまちづくりアンケート	●	●	●	●	●	●	●	市

3 認証後の取組み

取組みの経過(認証取得後から)

回数	開催日	主な協議事項
第7回	2016年12月	①安全・安心なもちづくりに関する市民意識調査 ②各対策委員会の活動状況報告 ③今後の活動予定 について
第8回	2018年8月	①各対策委員会の取組み状況 ②成果の現状(評価指標)と課題 ③各対策委員会の今後の取組み について
第9回	2018年12月	①各種データの状況 ②各対策委員会の取組み状況及び評価指標 ③本委員会から各対策委員会への指導・助言 について
第10回	2019年3月 (書面報告)	①2018年度本委員会活動報告 ②2019年度スケジュール(予定) について
第11回	2019年8月	①今年度の行事予定 ②再認証事前指導 ③再認証事前指導の各対策委員会の報告資料 ④再認証事前指導の本委員会の報告資料の確認 について

認証取得後の取り組み内容

①ケガや事故のデータ収集・分析

- ・ケガや事故に関する外傷データを継続して収集する
- ・発生要因(原因・場所・時間など)について検証・分析する

②効果や影響などの測定・評価

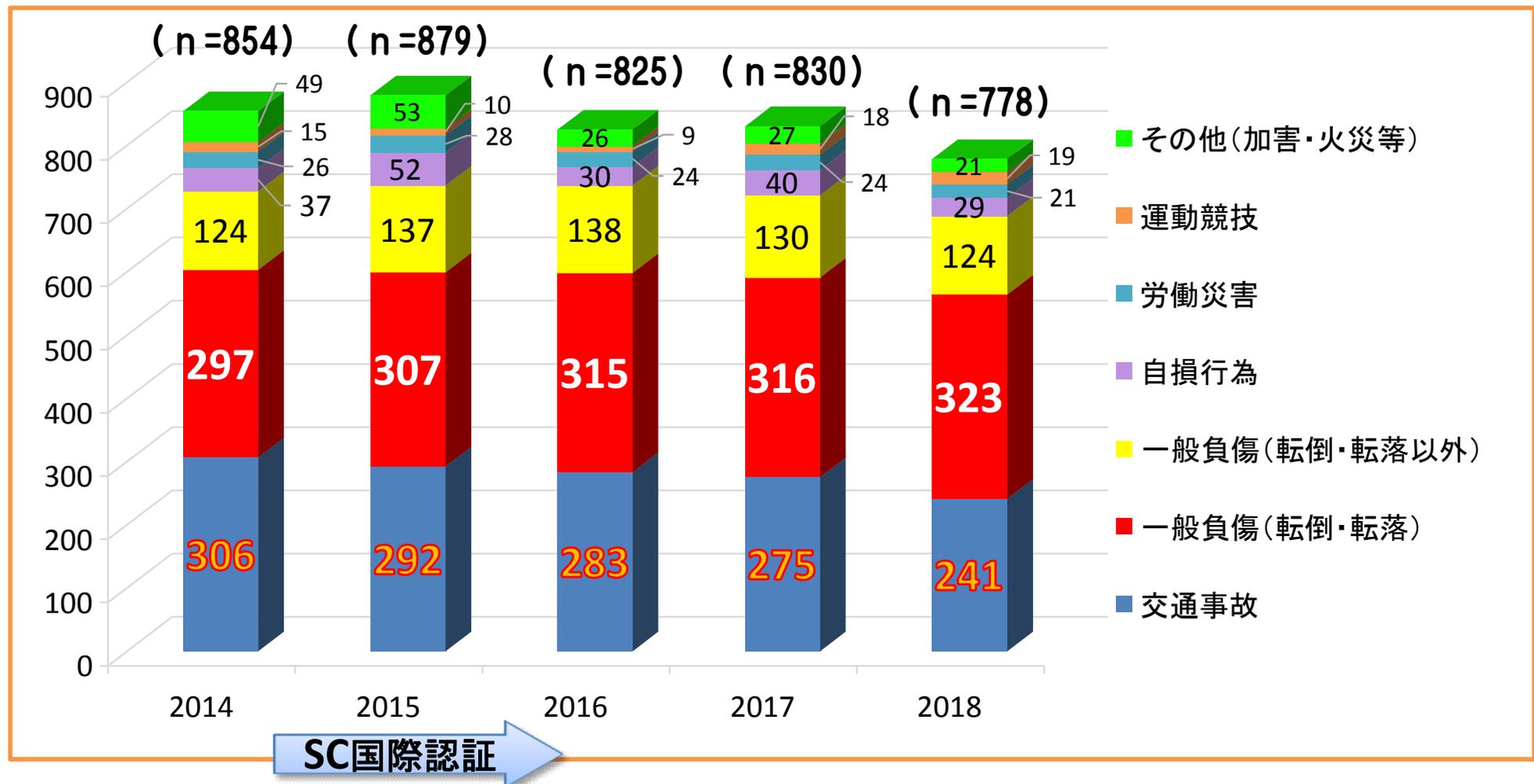
- ・対策委員会の取り組みについて、指標に基づく効果を確認する
- ・効果検証にあたり、必要となるデータを収集・分析する
- ・取り組みの実施にあたり、参考となる事例等を紹介する

①ケガや事故のデータ収集・分析

秩父市の外傷状況（救急搬送データ①）

認証後、救急搬送件数は減少傾向にある。

図表9

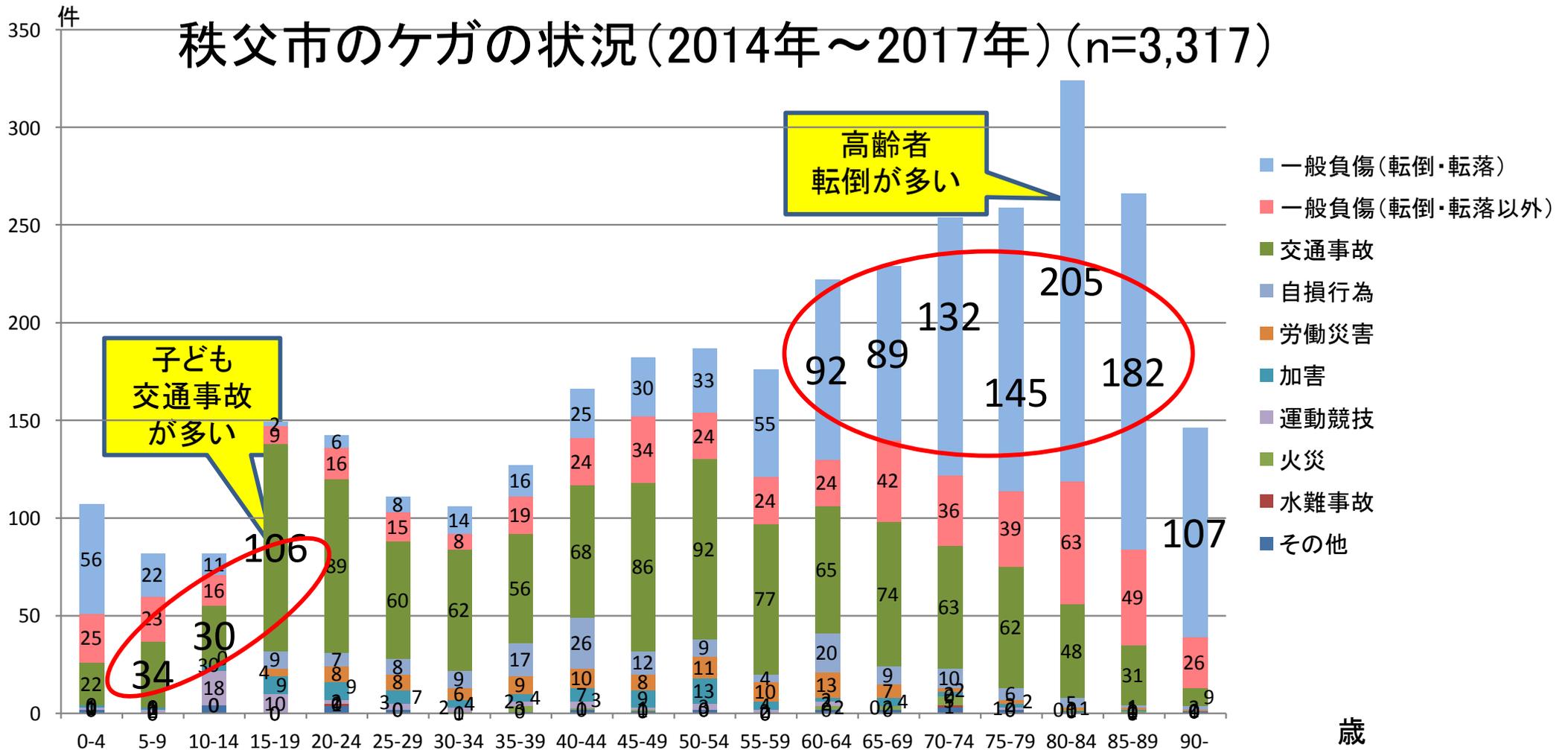


①ケガや事故のデータ収集・分析

秩父市の外傷状況（救急搬送データ②）

図表10

子どもは「交通事故」、高齢者は「転倒・転落」による搬送が多い。



①ケガや事故のデータ収集・分析

市立病院データ①

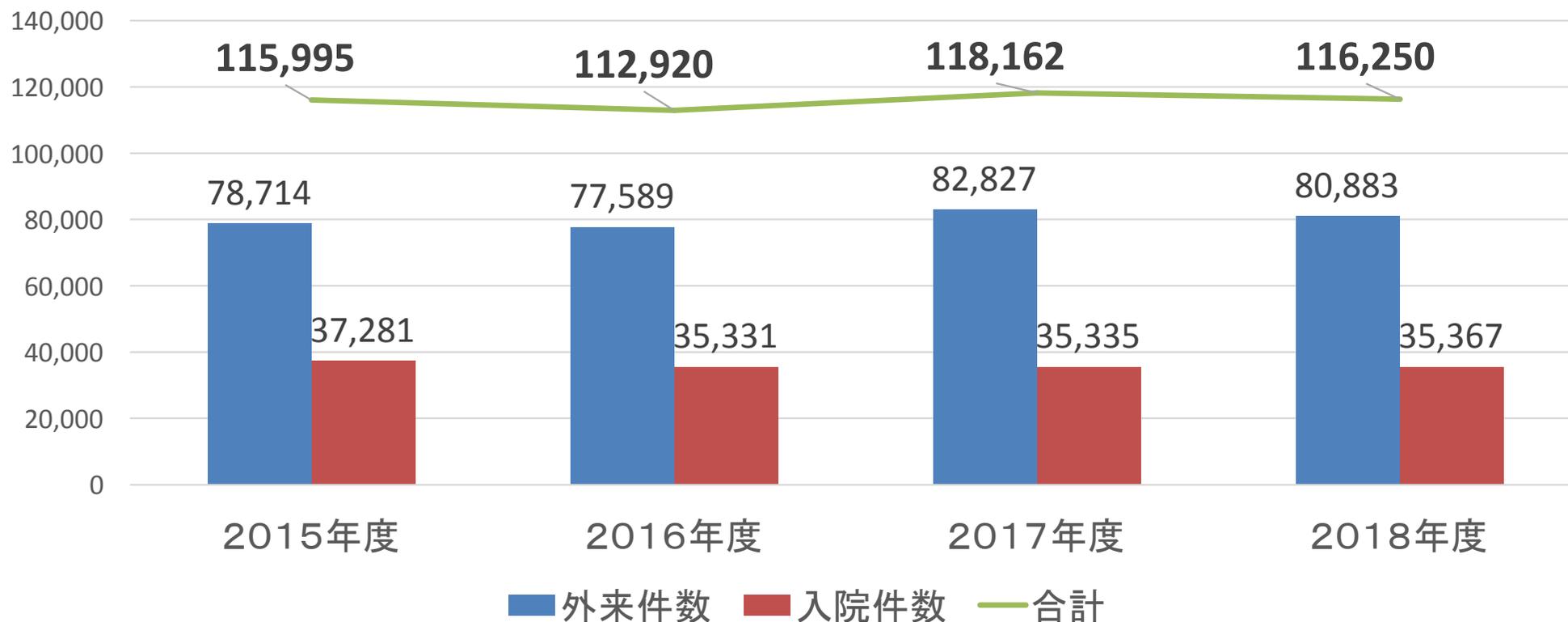
毎年約11万人の方がかかる秩父市内の中核的な病院である。通院が約68%、入院が32%の割合となっている。。

人口(各年4月1日現在)と患者数の割合

年度	人数
2015	65,741
2016	64,989
2017	64,168
2018	63,365

図表11

受診者数



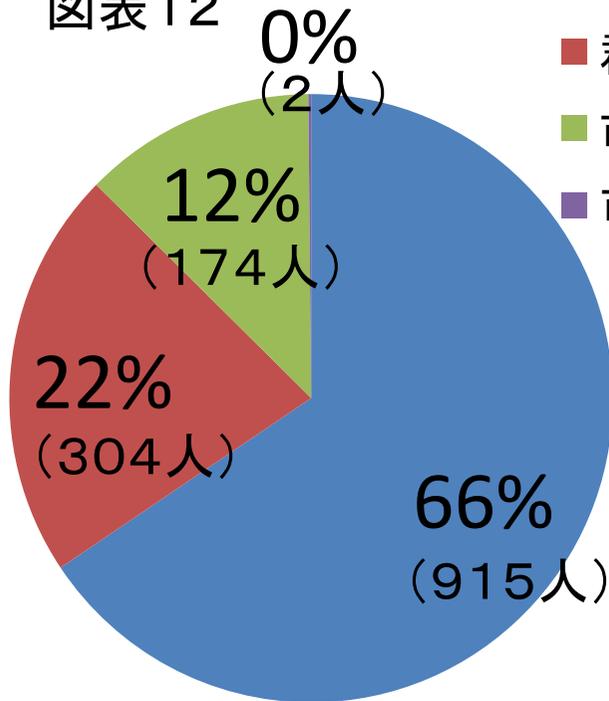
①ケガや事故のデータ収集・分析

市立病院データ②(外傷状況2017年)

受診者の内訳は、市内が66%、郡内が22%、秩父地域で約9割
年齢層で見ると0~4歳が最も多く、次いで40~49歳で受診者が多い

●受診者居住状況

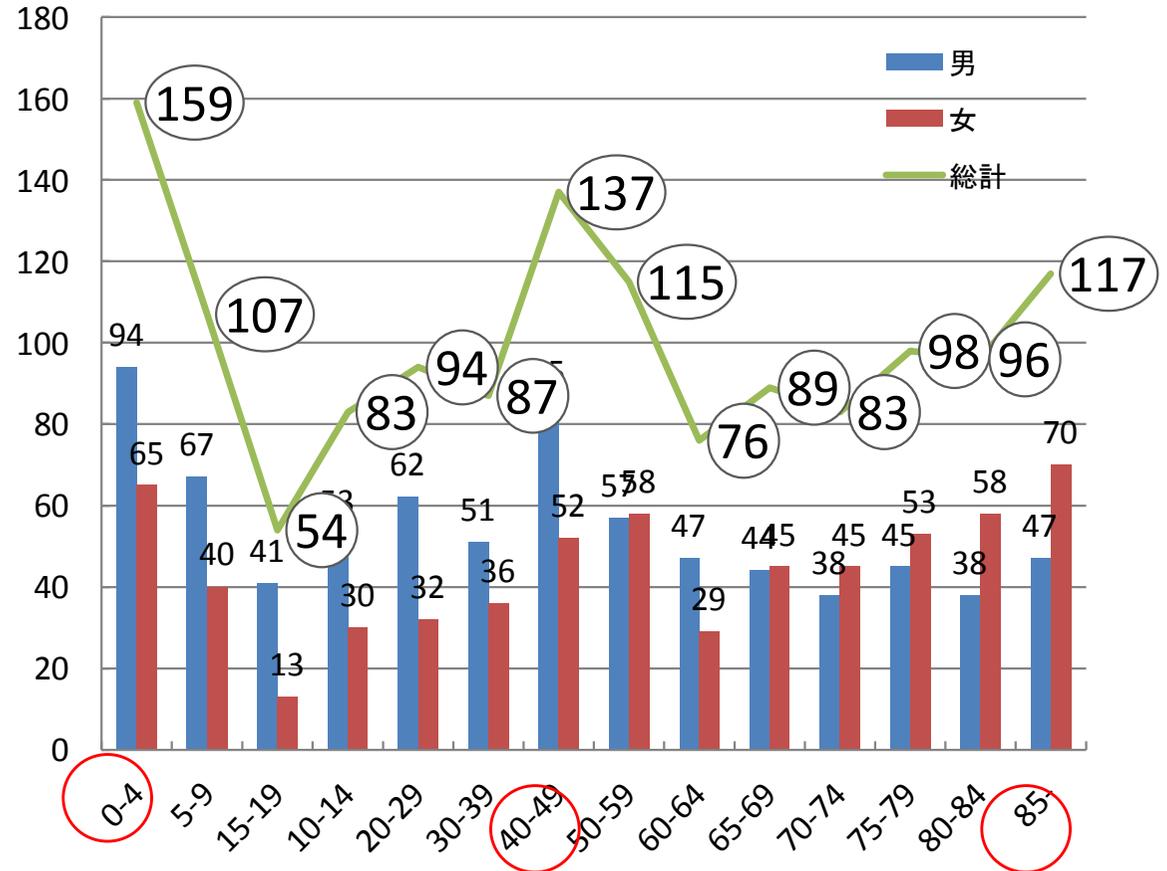
図表12



- 市内
- 郡内
- 市外
- 市外(海外)

●年齢別受診者数

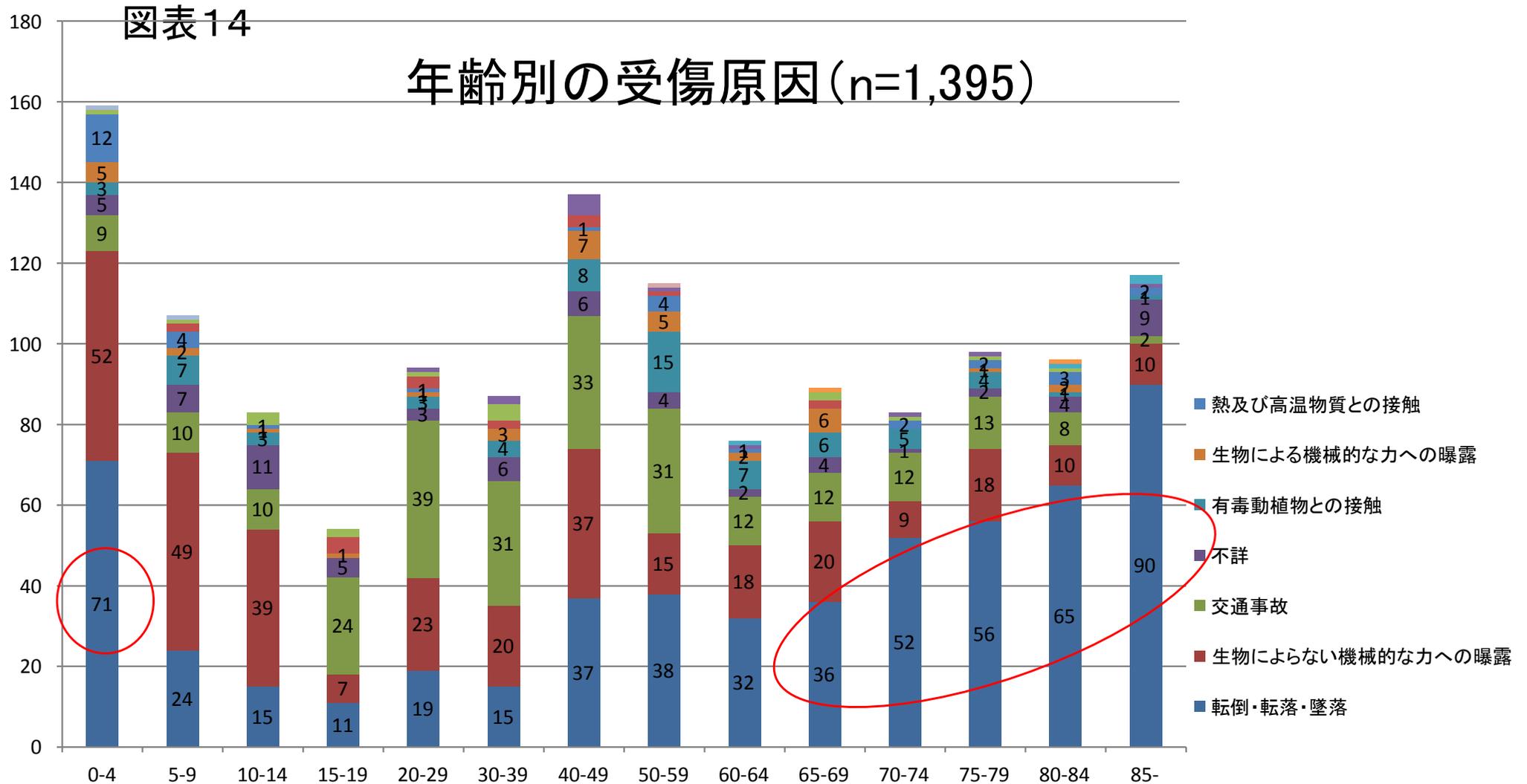
図表13



①ケガや事故のデータ収集・分析

市立病院データ③(外傷状況2017年)

0～4歳、65歳以上で、転倒・転落・墜落が原因での受傷が多い

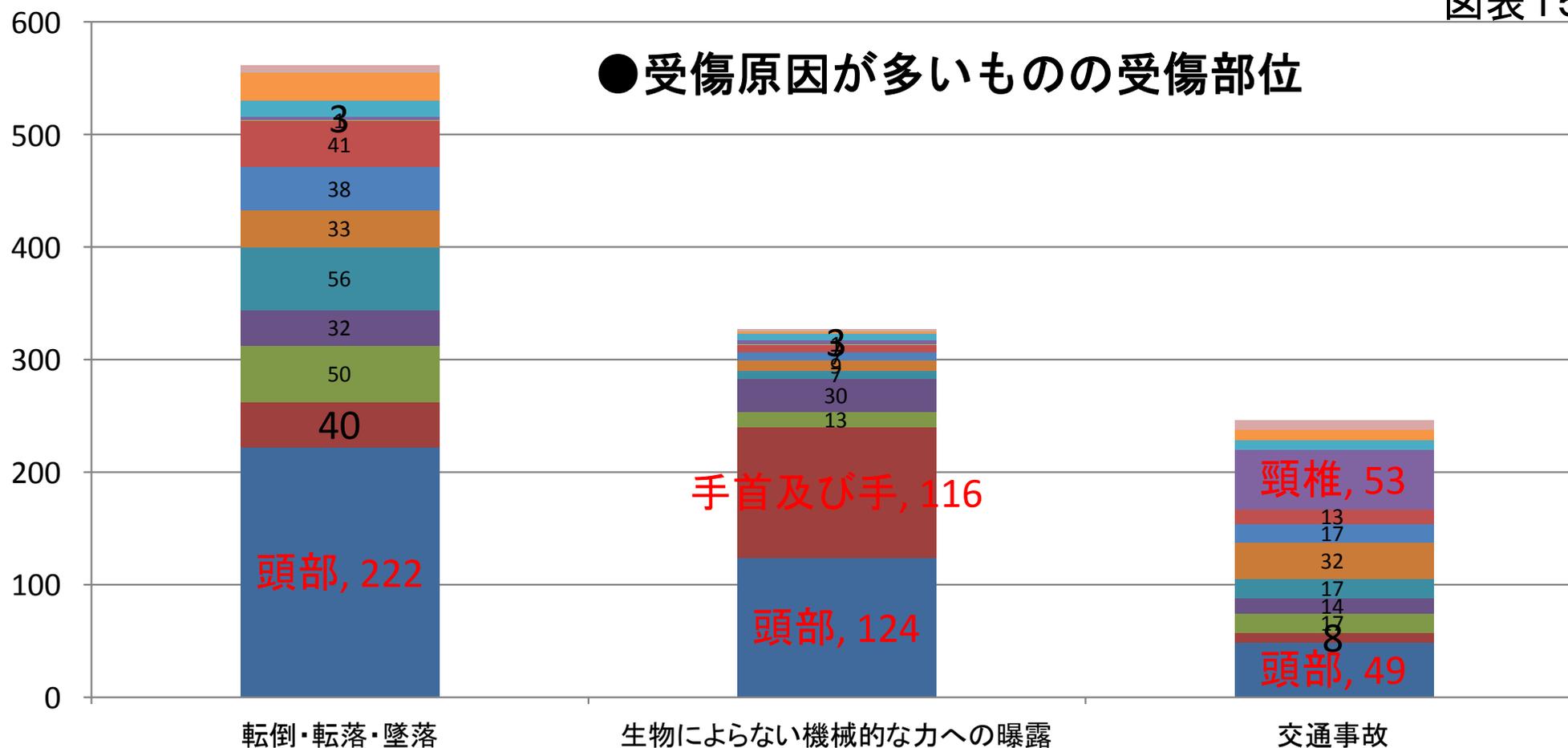


①ケガや事故のデータ収集・分析

市立病院データ④(外傷状況2017)

- ・転倒・転落・墜落では、頭部をケガしている
- ・生物によらない機械的な力への暴露では、頭部と手部でケガをしている
- ・交通事故では、頸椎と頭部で負傷している

図表15



①ケガや事故のデータ収集・分析

ケガや事故に関する外傷データを継続して収集する

図表17

新たなデータの収集・分析事例

図表16

New

システム入力年月日：____年__月__日
 整理番号(00)：____ 記入年月日：____年__月__日
事故調査シート 記入者：____
 園 係 育 幼

水田・日野田・花の木・新森・吉田 保育所

けがをした人の情報			
1. 性別 男・女	2. 氏名 _____		
3. 身長 _____cm	4. 体重 _____kg		
5. 生年月日 _____年__月__日生			

事故の情報			
3. 事故がおきた日時 ____年__月__日 午前/午後 ____時__分ごろ			
6. 事故が起きたときにやっていたこと 室内遊び 戸外遊び 散歩 トイレ 水遊び 給食・おやつ 午睡 読書 延長保育 その他()			
7. けがの種類 打撲・打ち身 すり傷 切傷 さし傷 やけど 骨折 裂傷 捻挫 その他()			

4. 治療内容 その場で治療(消毒、ばんそうこうなど) 治療の必要なし 病院にいく必要あり	
9. 事故の種類 転んだ 落ちた ぶつかった・ぶつけられた はさんだ 切った やけど けんか 刺さる 交通事故 その他()	
10-1. “ころんだ”・“ぶつかった”・“ぶつけられた”の事故の場合 なぜ、転んだ・ぶつかったのですか？ () ぶつかったもの(人) () ぶつかったものの材質 ()	
10-2. “落ちた”事故の場合 どんなものから落ちましたか () 落ちた高さは何センチ？ ()cm ぶつかったもの(人) () ぶつかったものの材質 ()	

怪我をした部分を塗ってください。
 事故の種類が複数ある場合は、事故の種類も記入してください。

全身	
前	左側
後ろ	右側

11. 事故の前は何をしていましたか？ ()

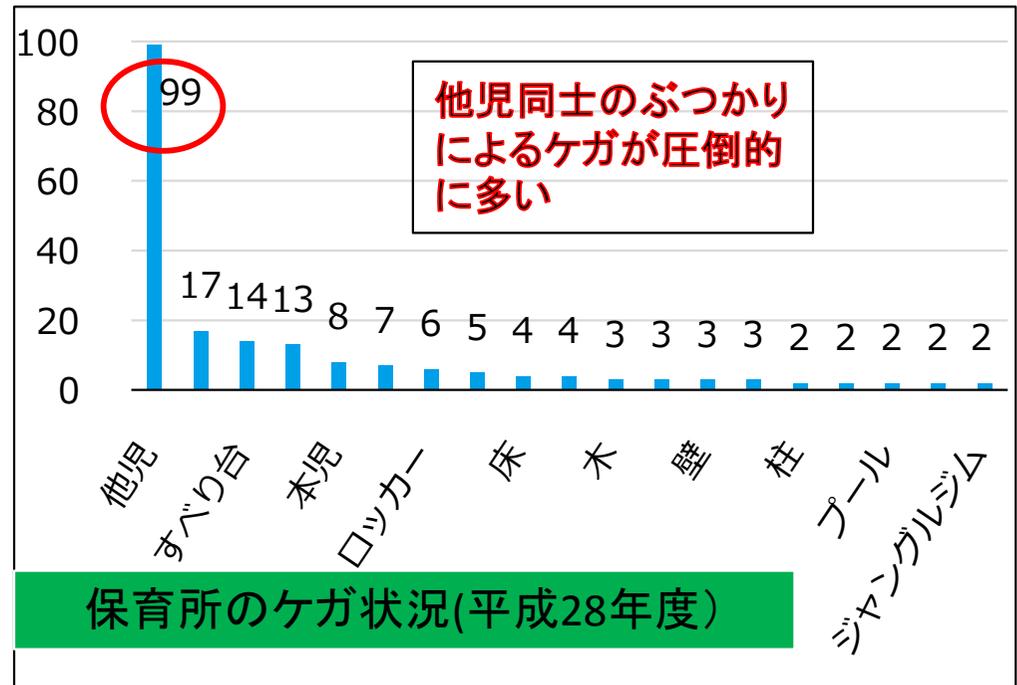
12. 事故・怪傷に関係のあったもの・人 ()

13. 事故が起きた場所はどこですか？
 保育室 ホール 廊下 階段 玄関 トイレ ベランダ 園庭
 プール 手洗い場 運動場 公園
 その他()

14. 事故の詳細な状況や、気づいたことを記入してください

年 度	市立保育所でのケガ発生件数(全5施設)
平成28年度	362件
平成29年度	186件
平成30年度	297件

図表18



②効果や影響などの測定・評価

各対策委員会へのアドバイス(助言・提案)1

図表19

対策委員会	本委員会からの指導・助言(意見)
交通安全	①被害者だけでなく事故を起こす高齢者のデータを収集 ②保険会社や自転車・自動車の販売店のデータも確認
高齢者の安全	①救急搬送「件数」だけではなく、「割合」も示す ②現在の高齢者対象サロンに、子どもも巻き込む。
子どもの安全	①受傷件数と併せて、発生割合もみていく ②件数だけでなく、その背景も見る →練習量の増加など、受傷要因を考察

②効果や影響などの測定・評価

各対策委員会へのアドバイス(助言・提案)2

図表20

対策委員会	本委員会からの指導・助言(意見)
犯罪の防止	<p>①実績が上がっているが市民の不安感が高い。他自治体を参考に、活動をしていることをアピールする</p> <p>②一般の方は自転車盗に関心が低い。防犯登録の徹底と自転車盗が犯罪であることを認識してもらう</p>
自然の中での安全	<p>①遭難者の位置を把握するため、GPSの活用を呼びかける</p> <p>②登山届をデータとして使えないか検証(登山道単位で遭難者の傾向を把握)</p>
自殺予防対策	<p>①飛降り防止看板の設置場所での自殺件数の増減を確認→夜間見えるような工夫を</p> <p>②職場の悩みが関連している部分もあるため、職場からのアプローチを検討。</p>